

うつぶせの春

望月苑巳

うつぶせの春がまたやってきた
顔を上げて見ることが出来ない
不条理に包まれた春だ

そこには上書きされた町がある
遠くに港を出てゆく漁船の幻
水平線には拳を振り上げた真っ黒い海坊主

岸壁でゆりかもめが歌っている
それを追う猫も

猫を追う子供らも
魔法のように
その日、消えた

すべては午後2時47分の魔法

上書きされる前の町を
もう忘れかかっているという自己嫌悪が
記憶の海に浮かぶ
もがく家並み

慈悲を忘れた神のいたずらかとも思う
などとはいうまい
そんな薄っぺらい形容詞では言い表せないのだから

人知を超えた歴史のデザイン変更が終わり
上書きされた町には
猫もゆりかもめも
子供らの笑顔も戻ってはこない
それらは偽りの幻の町だから
まだ何も終わっていない
まだ何も始まっていない
うつぶせの春がまたやってきた